

令和6年度 第2回公立幼稚園のあり方検討会（会議録）

日時 令和6年9月18日（水）午前10時～午前12時

場所 森町立飯田幼稚園

出席者 会長 田宮 縁
委員 萩本 弘江
委員 鈴木 秀臣
委員 増田 博行
委員 安間 初実
委員 平松 悦夫
委員 平出 麻子 （欠席1名）

（事務局）

学校教育課長	塩澤 由記弥
健康こども課長	朝比奈 礼子
健康こども課長補佐	川島 直子
幼稚園保育園係長	米倉 雅俊
幼稚園保育園係主事	菅沼 朋恵
幼稚園保育園係指導主事	小倉 寿加子

出席 委員7名・事務局6名

議事 （1）小規模幼稚園の現状と課題（視察）
（2）幼稚園学級編成等における最低基準について

議事要旨

- 1 開会（課長補佐）
- 2 挨拶

会長：皆様、おはようございます。森町は訪問していますが、幼稚園ということでは訪問したことがありませんでしたので、8月の下旬に5つの園の位置関係と周辺地域の環境をみてきました。非常に森町の歴史を感じました。文化度が高く、道にしてもどこにしても綺麗で、小京都といわれている所以がここにあるのだらうと思いました。

もう一つ感じたのは、他市に比べると幼稚園同士の位置関係が近いということです。です

から、幼稚園の位置関係について私の持っていたイメージと実際にギャップがあったかもしれせん。今回のあり方検討会では、どのような形であっても森町の良さを活かしながら、森町公立幼稚園の今後について建設的な議論ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 小規模幼稚園の現状と課題（視察）

事務局説明（幼稚園保育園係長）

松田園長：飯田幼稚園長の松田と申します。私の方から園経営構想などについて説明させていただきます。

幼稚園経営書を開いて2.園区の概要をご覧ください。保護者・地域住民共に幼稚園教育に理解があり積極的に協力していただきます。生活しやすい環境で、住宅やアパートも増えていますが、幼児の数は減少傾向にあります。

次に、4.学級編成及び園児数をご覧ください。今年は、年少2人、年中9人、年長7人の18人です。卒園児が10人、入園児が2人ということで、8人の減少となっています。数年前までは該当幼児の5～6割が入園していましたが、昨年度は22人中9人、そして今年度は、16人中2人という状況でどんどん減少し、年少・年中は複式学級となってしまいました。飯田地区の子どもの数自体が減少しているのもありますし、保育園へ通う子どもが多くなっていることから、今後、入園者がどのようになるのか心配です。来年度の年少対象児は18人で、11人が認可保育所、1人が小規模保育所、6人が未就園児です。7月11日に実施された未就園児学級の参加人数は5人でした。

経営書の一番裏をご覧ください。今年度はパッとみてわかりやすく・親しみやすいデザインのものとグランドデザインを掲載いたしました。子どもたちはとても楽しく、元気に登園しています。今年度、飯田幼稚園では、今まで順調に活動できていることはとてもありがたいことだと思っています。笑顔で、登園したくなる幼稚園そして、「園児、保護者、地域から信頼される幼稚園」を経営目標として取り組んでいます。教育目標は「体も心もしなやかな子」です。今の世の中は変化が著しく、価値観も多様化してきています。そこで生きていく子どもたちには新たなことにも好奇心や勇気をもってチャレンジしたり、さまざまな人の考えや情報を取捨選択して柔軟に対応したりすることができる資質、能力が必要であり、そのためには柔軟性やしなやかさが重要だと考えました。しなやかな体とは様々な場の状況に応じて動きを工夫したり、調節したりする力を備えた体のことです。そして、しなやかな心は、嫌なことや困難な状況に遭遇しても、前向きに心を整えて、辛抱強く取り組む、やり遂げようとする心のこと、挫けても立ち直ることのできる心、あるいはそうしようとする心のことととらえています。

重点目標は、①自分のやりたいことを見付けて遊び込む子②友達と関わることを楽しみ

ながら、自分の考えや遊びをよりよくする子③生活に必要な習慣や技能が身に付いた子です。

また、今まで以上に幼小接続の重要性が叫ばれている今年度は、目の前に飯田小学校がある立地条件を活かして、園児や職員が飯田小学校に行く回数を増やしています。小学校との連携接続について、園内研修を計画し、5月には小学校との連携・接続について園の職員で意見を出し合い、7月には小学校の先生と幼小接続について話し合いました。幼小の交流についてそれぞれがどのように考えているか、小学校での学習と幼稚園での保育についての意見交流を行い、意義ある会となりました。昨年度、開園したプティ森町園と5月に打ち合わせをし、主に年長児との交流をしています。1学期には保育園児が本園に来て交流したり、本園児が保育園へ行ってプールでの交流をしたりしました。2学期には保育園、幼稚園共に3回の交流を予定しています。全職員で全園児の様子をみる、どの子ともふれあうというスタンスで保育に当たっています。今後も保育を工夫し、子どもたちの良さを伸ばしていければと思っています。

(園内巡回、視察)

小規模幼稚園の運営について説明(松田園長)

小集団の課題と工夫している点

- ・それぞれの学年にあった指導をするため、複数の学年の計画を立案している。
- ・個々に応じた支援や声掛けのため、それぞれの発達を理解するようにしている。
- ・近くの園との交流を頻繁に行うことにより、順番を待つ、分け合う、我慢する、思いやりの気持ちを持つなど、少人数では経験が少なくなりがちな体験をできるようにしている。
- ・就学後に大きな集団になっても困らないだけの力をつけることを第1に考えて保育をしている。
- ・全園児で関わって遊べるように、教師も仲間になりながら子どもたちが遊びを進めるように努めている。
- ・同学年からの刺激が少なく、人間関係が固定されがちなので、関わりの中で互いの良さを見つけられるように関わっている。
- ・対大人になってしまわないように保育をしている。

少人数保育の難しい点(デメリット)

- ・幼児期に必要な集団生活において育まれる、社会性や協同性は育ちにくい。
- ・友達との対立や葛藤により自分の思いを主張したり、自分の中で折り合いをつけたりという体験が少ない。
- ・クラスに気の合う友達がいなかったり、トラブルがあつたりしても友達関係や力関係が

固定化されて新たな居場所を見つけることが難しい。

- ・子どもの数に対して大人の数が多すぎると、どうしても子どもが依存しやすい。
- ・保育の見通しをしっかりと持っていないと保育ではなく、見守りになってしまう。
- ・友達からの刺激が少なくなる。
- ・数が多ければ、周りの刺激も多く、遊びや友達関係も固定されることはないが、人数が少なくなると、その中でどうにかしなければいけないという問題も出てくる。
- ・多様な考え方に接する機会が限られて、考えの幅が広がらないこともある。
- ・教師の存在（環境としての教師）が大きいと、言葉、言い方、口癖などもすぐにうつってしまう。

少人数保育の良い点（メリット）

- ・幼児が落ち着いて生活できる。
- ・園外活動がしやすい。園外に出る時や、興味関心からこういう遊びをしたいと思った時など、すぐに軌道修正し、活動の方向転換ができる。
- ・大きい集団であると受け身になりがち（受け身でいられる）だが、少人数は、自分の思いや考えを伝えやすい面もある。

会長：まず、こちらの園では非常に質の高い保育が行われているということをお話しておきたいと思います。これは人的環境が大きいのだろうと思います。幼児教育は環境を通して行うものですが、朝9時頃には先生達が園児と一緒に園庭で鬼ごっこをして仲間の一人として動いている姿を見ました。また、外での遊びを拝見させていただくと、先生が誘導するのではなくて、子どものやりたい条件・状況を作っているのがみてとれました。豊かな自然環境とオリンピックなどの社会的状況が分かるような工夫のある掲示物、部屋のゆとりがあり生活するスペースと遊ぶスペースが分かれているところなど良い点が沢山ありました。公立幼稚園では、どの園も少しずつ人数が減ってきているので、ある程度ゆとりがあるのですが、保育園などは遊戯室がなく保育室になっている園が多いです。1つのスペースのなかで生活をして、遊んでという状況になってきているのをみると、生活と遊びのスペースが分かれているのは良い点です。

人数のことにありますが、子どもが主体になって生活や遊びを作り上げていく人数はどれくらいなのかということを改めて考えたところです。例えば20人クラスにいたらこのような活動はしにくいと思います。松田園長からもお話がありましたが、少人数であることによって、落ち着いていて園外にも出やすく、子どもの気持ちに応じて活動の方向を組み替えやすいといったことがあると思います。

今日見ていて、少人数で残念だなと思ったところがありまして、遊戯室の遊びで1人踊っている園児がいたと思うのですが、あのような時に周辺にもう1～2人いて一緒に踊ったり、観客となったりする子がいた方が更に楽しくなるだろうなと思いました。少人数で

あることによって社会性や協同性ではなく、プロセスの中における遊びの組み立てがしにくいだろうなと感じています。

自己主張と自己抑制をしていく大切な時期ですが、もしかしたら喧嘩が少ないのではと感じました。一方で人数が多いところでは、先生が喧嘩をさせないようにしているので、どちらにしてもなかなかしにくい状況にあるとは思いますが、やはりこの人数だと自己主張と自己抑制の機会がとりにくいのかなと思います。

特別支援との関係はこれからきちんと考えていく必要があります。特別支援が必要な児童ばかりになると、少人数以上に分断された状況になるため、資料にあるように特別支援の“最終的な”受け皿としていく覚悟を決めていかないといけないと思います。

支援児を受け入れると加配の保育者が増えることになりますので、子どもの比率に対して大人の比率が高くなり、子どもの自立性が保てなくなることも考えられますし、そこでのトラブルも無視できなくなってきます。

園児数が多くても支援が必要な児童の比率が高くなってしまうと、少人数と同じような状態になってしまうと思います。私自身、保育園から転園したいという相談を受けることもあります。転園により保育環境が悪くなってしまうケースもあるので、発達支援の施設と並行通園にした方がいいのではないかと等個々の園に巡回相談に行ってお勧めをしている状況です。少人数にはメリットデメリットありますが、特別支援の問題など違う視点からも考えていけるとよいと思います。人数が多くなっただけでは質の高い保育は望めません。

(2) 幼稚園学級編成等における最低基準について 事務局説明（幼稚園保育園係長）

委員：資料1の今後の方針についてですが、第1回では、園を統廃合していくしかないという方向性で残念だったのですが、今回は、園児数を増やすための方策を入れていただいて、ありがたいです。園長会や、健康こども課との話し合いを通して給食の提供日数の増加やPTA活動等の保護者負担の軽減を進めております。加えて給食の無償化などもできると良いのではないかと、思っておりますが、そのような点を資料に入れていただけて良かったです。

私は令和2年度から森町にお世話になっておりまして、その時は天方幼稚園にいました。来てすぐに入園する子が1人だったので驚いたのを覚えています。その児童は年少・年中の複式で一年間、年中・年長の複式で一年間過ごし、いずれも一つ年上の児童と2年間過ごしました。幼児期の一年間の違いは大きいので、色々な面で自分を発揮できないこともあったのかなと感じ、できれば同じ学年で複数人いる方がよいと思いました。

今日、飯田幼稚園の様子も見させていただいて、大変仲良く活動していましたが、もっと活動にダイナミックさがあってもよいと感じました。人数云々ではなく、子どもの個性

や大人の影響などもあるとは、と思いますが、そのような中で遊んでいくことによってレジリエンス、しなやかな心は育っていくのではないかと思います、活動が小さくまとまりすぎない方が良く感じました。それぞれの地域で園外活動ができる素晴らしい環境ですので、最低基準の人数を決めるということですが、私としてはなるべく少ない規模でもやっていける方向が良いと思っています。

委員：学級の最低基準を決めるのは難しいですが、教師が温かく見守り、園児が信頼を寄せることができる数であれば良いと思っています。理想は、3年間学級を固定せずに毎年編成できる人数であればと考えています。

会長：たしかに、複式学級になると児童の発達段階が違うということや、保護者と先生の1対1になること、遊びの幅が狭まるといったことがあります。しかし、学級数が増えてしまうと、その日やることをあらかじめ決めておく必要があるなど、身動きがとりづらくなってしまう可能性もあります。

委員：現在、飯田幼稚園の年長は7人ですが、長期休業中の預かりは、園田幼稚園の児童と一緒に過ごしています。子どもからも楽しいといった声を聞きますし、同年齢の子と遊ぶことができるので良い機会だと思っています。また、保育園児と交流する機会もとても大事だと思っています。少人数であっても交流によって社会性・協同性などの部分を補うことができるのではないかと思います。

委員：生き活きと好きなことができる環境で、川や園庭の様々な種類の植木も良い刺激を与えるのだろうなと思ってみていました。私の子どもは令和4年度に下の子が一宮幼稚園に入園し、年長に上の子がいる状況で、入園児2人の内の1人でした。2人とも年長に兄がいるということで、年上の子との接することに慣れていたため、上手くいったのではないかと思います。もし、2人が仲良く過ごせなかったらという怖さや不安といったものはありました。

上の子の年長クラスは8人いて、気分によって遊ぶ子を変えることができたり、人数が多すぎない故に、上の子とも下の子とも交流できたりする程よい人数だったのかなと思います。自分が通っていたときには学級に30人ほどいて、自分の学級で全て簡潔してしまうため、他学年と遊ぶことはありませんでした。他学年との交流も考慮すると10人前後が望ましいと思います。

委員：先生達のフットワークが軽く、動いていらっしゃるのをみて、人数が少ないからこそできることだと感じました。親としては通わせたい園だと感じ、保育園への入園を考えている保護者にも一度見ていただければ、幼稚園も良いなと感じていただけるのではと思

いました。子どもの教育には惜しげ無く、手間暇かけたいという保護者もいるのではないかと思います。仕事があるからと通わせるのではなくて、教育的に生きていく力を身につけるために通わせたい園がここにあるのではないかと思います。

幼稚園の学級編成と最低人数を決めるということですが、最低基準を決めることによって、入園を躊躇する材料にならないか不安です。学級の最低人数を決めるのではなくて、園全体の人数を決めておくなど、もっと段階を踏んでいくのが良いのではないかと思います。

委員：前回の検討会の後、主任同士で話をして、公立幼稚園の良さを振り返りました。私は、保育を考える上で、子どもを真ん中に考えられることが良さだと思っています。私立の園ですと目玉になるものを考えて、子どもを集めるということが無きにしもあらずだと思うのですが、公立幼稚園は地元の、地域の子どもたちが通う園ということで、保護者の方にご協力いただき、子どもを真ん中にして保育で、充実した保育ができていますので、とてもありがたいです。

最低人数を考えたときに、私自身少人数の園に勤めたこともあるため、やはり学年に1人というのはかなり無理があるし、いくらお姉さん、お兄さん達が可愛がってくれて、仲間に入れてくれても、発達年齢が同じ子がいるというのは非常に大きくて、同じ学年の子と遊びたいという思いが子どもにもあるというのは見ていて感じました。自分が保育をする上では、3人～4人は欲しいです。昨年度、園全体で5人の子どもたちを担当しまして、“本当の”最低基準ですが、園全体で5人はいることが望ましいと感じました。異年齢の子達と関わり合うなかで、意見交換、相談、協力し、その中に教師が入っていった活動ができるのは少なくとも5人なのかなと思います。

会長：グループ活動でできる人数を確保するという観点から言うと、各学年4人は必要だと思います。それを基準に考えると各園で12人が最低基準になってくると思います。最低ですから、本当はもっと多い方が望ましいです。

今日視察させていただいて、非常に質の高い保育が行われていることがわかりました。色々な園をみているとそれがよく分かります。他園の保護者の方は、特にこの園の保育は良いとご理解いただけたと思います。

最低基準の人数が学級で4人、園全体で12人は必要だとお話しましたが、人数の部分はまだ少し検討が必要だと考えます。これからの課題として、解説付きの見学会なども保護者に対して行っていく必要があると思います。未就園児に向けての会でも、遊ぶだけではなくて、どのような保育をしているのか伝えていくのが重要です。更に、少人数園なので交流をしていくこと、保護者のニーズに少しでも合わせていくことが園児を増やすことに繋がっていくと考えます。先ほども申し上げましたが、特別支援との関わりについても配慮し、学級の最低基準を決めたとしても構成していく児童によっても違いが生まれるの

で、どう考えていくのかが今後の課題になっていくと思います。最終的な受け皿という言葉の意味を明らかにしていくことが重要です。

最低基準を決めてしまうことによって入園をやめてしまうのではというお話もありましたが、そのような思いを払拭するため、見学会を実施するなど意図を伝えていくことを併せてしていく必要があると思います。

今回出た意見をまとめ、次回の検討会で具体的な人数を決定させていただきます。

以上で議事を終了し、進行を事務局へお返しします。

7 事務連絡（幼稚園保育園係長）。

次回検討会の開催について

8 閉会（課長補佐）

以上「第2回森町公立幼稚園のあり方検討会」閉会